

連載へまつやま 人・彩時記

33

伊予鉄道電気社員
愛媛県川柳界の元老
野球拳の創始者

前田 伍健

元松山市立素鷺小学校長
伊予史談会会員

上岡 治郎

一、幻の「伊豫風土記」

① 空襲そして敗戦

昭和20年松山上空襲、そして敗戦という大変な時代に、昭和22年



米軍機(B29)の空襲で焼土となる

から三年間に亘って松山中央放送局がラジオ放送したものの中から選んで上下二冊の本にまとめたものが、この「伊豫風土

記」である。

なお、この番組で放送した人たちは、下の表で見てもらっても分かるように、当時の愛媛県の一級の文化人、学者、作家、マスコミ関係者であり、三年間も続いた理由が分かるというものである。

② 「伊豫風土記」復刻

ところで、私がこの「伊豫風土記」復刻に関係したわけは、名古屋に住む親戚の田中寿美さんが、愛媛県の伊予観光大使をしており、昨年の秋、東京で加戸知事を囲む「伊予観光大使の会」があった時、復刻の話をして賛同を得たからだだった。

ところが、知事

さんのお話では、著作権の問題が大切で、遺族を探し、「出版許可の承諾書をもらう必要がある」との事であった。

そして私が、初めて前田伍健さんのお宅を訪ねたの



昭和31年ころの前田伍健氏

伊豫風土記 上巻[風物篇]		伊豫風土記 下巻[文化・人物篇]	
目次	著作者	目次	著作者
お国自慢	松山中央放送局	伊予の文化史	伊予の文化史
伊よ緋	松山中央放送局	対談 古代	※柳原 多美雄
松山城	松山中央放送局	奈良平安時代	※景浦 稚桃
道後温泉	※景浦 稚桃	鎌倉室町時代	田中 歳雄
菊間瓦	※村上 節太郎	江戸時代	※景浦 勉
石鎚山	※景浦 稚桃	明治時代	一色 蒙
新居浜と別子銅山	高橋 喜好	熱田津考	武智 雅一
砥部焼	※酒井 八四郎	伊豫基督教史	椿 真六
面河溪	松山中央放送局	新聞の歩んだ道	松本 鎮
御荘の闘牛	松山中央放送局	明治の伊豫俳壇	景浦 勉
八つ鹿踊り	※弘田 義定	伊豫のうたい	伊藤 秀夫
		松山と能楽	松山中央放送局
伊豫の旅		人を語る	
四国遍路	※景浦 稚桃	松山に於ける	※景浦 稚桃
四国の庭園	松山中央放送局	夏目漱石	松山中央放送局
伊豫の天然記念物	※八木 繁一	正岡子規	※景浦 稚桃
懸下の重要美術品めぐり	※景浦 勉	松山時代の	
		子規と漱石	高橋 文雄
内海の島々		義農作兵衛	※景浦 稚桃
(1)大島	松山中央放送局	下見吉十郎	松山中央放送局
(2)魚島と伯方島	松山中央放送局	大和田建樹	松山中央放送局
(3)興居島	松山中央放送局	中野逍遙	菅 菊太郎
(4)中島	松山中央放送局	末広鉄腸	※景浦 稚桃
瀬戸内海	松山中央放送局	山之内仰西翁の事蹟	
以下略		以下略	

は、平成17年5月2日(月)で、ご子息からいろいろなことを親切にご指導いただいた。



「伊豫風土記」上・下巻

二、前田伍健の研究

① 研究資料

- 伊予鉄道電気株式会社五十年史(昭和11・10・1発行)
- 愛媛川柳の流れ(第一巻) 昭和48・9・10
- 愛媛川柳の流れ(第二巻) 昭和51・8・10
- 愛媛川柳の流れ(第三巻) 昭和53・2・25
- 愛媛川柳の流れ(第四巻) 昭和54・8・25
- 愛媛川柳の流れ(付録) 昭和61・1・25
- 愛媛県川柳史 平成9・12・31発行

● たちばなの郷

平成15・3・20発行

● 金亀建設カレンダー

(26年間発行)

② 生い立ち

● 明治22年1月5日、警察官の父前田忠平、母マサの長男として香川県高松市に生まれる。本名は久太郎。

● 父は趣味が広く、久太郎は父から書画や居合術などを学ぶ。
● 高松中学から伊予水力電気坂出支店に就職し、大正3年、都々逸歌詩募集に応募し入選する。そして「五剣」の号で俳句・川柳を作る。

● 五剣の勤務する伊予水力電気と伊予鉄道が大正5年に合併し、多芸な彼は同社の宣伝部に勤め松山に定住する。

三、本名・久太郎の雅号

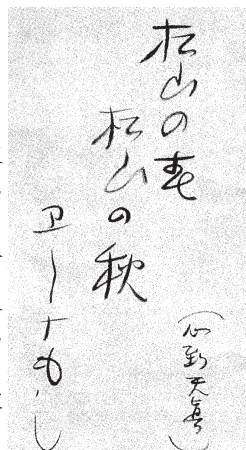
本名 久太郎

〈雅号〉

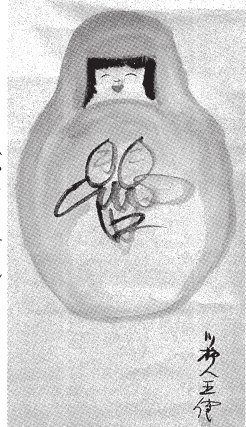
その1

五剣 (大正3年〜大正10年)

郷土に近い五剣山に因んで「五剣」としたとも、家紋の「剣か



松山の春 松山の秋 エーナもし (心到天真)



たばみ」に因んで名付けたともいわれている。

その2

五健 (大正10年〜昭和22年)
北予中学校校長の秋山大将からもらった「質実剛健進取不倦」の書の「剛健」に因んで五健と改める。

その3

伍健 (昭和22年〜昭和35年)
敗戦後の混乱が少し納まった昭和22年7月、喜多郡粟津村の「かじか川柳会」の席上、大洲の今川椋影氏が立ち上がり、「五健先生はかなりご衰弱のご様子であるが、先生が往年のお元氣を取り戻されるよう、愛媛県の全川柳人が先生の杖になりたいと思います。具体的に言うとう、五健先生の五に、我々の人杖を添えて、伍健として頂きたいのであります。川柳人全員が先生の人つえになることを願っております。」と発表し、五健先生は、以後「伍健」と改められたのである。
法名 伍健院釈晃沢慈照居士

四、職場での活躍

① 伊予鉄道電氣の宣伝部員となる
大正5年、五剣が勤める伊予水力電気と伊予鉄道が合併し、伊予鉄道電氣となる。

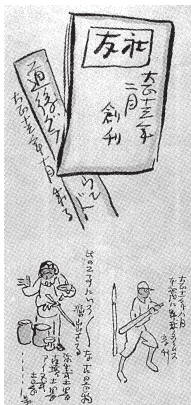
そこで、趣味の域を超えた腕前の書画、居合、日本舞踊、三味線、琵琶などを通じて、会社の宣伝部で活動の幅を広げ、伊予鉄道電氣の事業発展のために努力する。

そして前田五健さんは、常に絵入り宣伝文を作り、一般大衆に喜ばれたようである。マニアが居て、持って帰られることもあったという。

② 野球拳の創始者

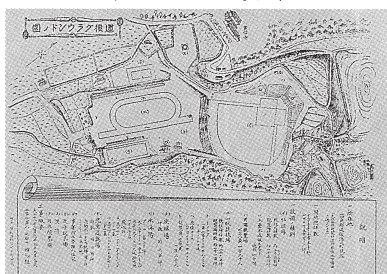
大正13年、前田五健は、伊予鉄

野球タイムス創刊



道後グラウンド成る

道後グラウンドの設計図 (伊予鉄五十年史)



昭和15年ころ、家族とともに

道電氣野球部の副監督を務めていたが、高松に遠征して惨敗。その夜の宴会で、選手たちを元氣づけるため、五健は即興で野球拳の歌と振り付けを作り上げたのである。



副監督時代の伍健

◎ 野球拳の歌

野球するなら
こういう具合にしやせんせ
投げたら こう打って
打ったら こう受けて
ランナーになったら エッサッサー
アウト、セーフ、ヨヨイノヨイ
あいこでホイ(勝負が決まるまで続く)
へボのけ へボのけ おかわりこい

